



赤ちゃんは物をつかんだり引っ張ったり鳴らしたりして遊びます。脳が徐々に発達していくにつれて、手や指の動きも活発になっていきます。子育て支援センターで人気の手作りおもちゃと、手指等の発達について（発達状況には個人差があるのであくまでも目安）月齢ごとにいくつかご紹介します。

0～3ヵ月ごろ

- 自分の手に興味を持ち、じっと見つめたり動かしたりする。
 - 手の平に触れた物をギュッと握る。
 - おもちゃ：柔らかい素材のおもちゃ
：シフォンなど
- ※この頃は、生活そのものが遊びになり、人の顔や声がとても良い玩具になります。



シフォンスカーフ



ホースのリング

- 4～6ヵ月ごろ（首が座り、寝返りのころ）
- 見たものを触ったり手でつかんだり、何でも口の中に入れようとする。
 - ※口の中の感覚で世界を探っているので、止めずにできるだけさせてあげてください。
 - おもちゃ：振ると音が鳴るガラガラのようなおもちゃ

★ふたが開かないようしっかりテープなどでとめましょう。



ペットボトルマラカス

- 7～9ヵ月ごろ（うつぶせ、ずりばいのころ）
- 指先が発達し、つまむことができるようになる。
 - 片方で持ったおもちゃをもう片方の手に持ち替えることができるようになる。
 - おもちゃ：つかみやすいチェーンや布で引っ張り出すおもちゃ
- ※手を伸ばして触ってみようと思えるように、少し離れた所におもちゃを置いたり転がしたりすると、ハイハイを促すことにつながります。

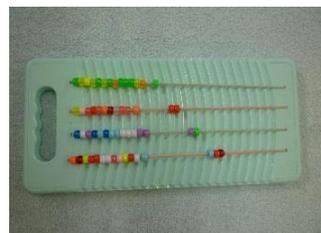


ひっぱりチェーン



ミルク缶から布がスルスル

- 10～11ヵ月ごろ（ハイハイのころ）
- 小さな物を親指と人さし指でつまむ。
 - 色々な物を“出す”行為を楽しむ。
 - おもちゃ：引っ張ったり離したりするおもちゃ。
- ※指先が器用になってきます。触りたいと思うような玩具（つまむ、打ち合わせる、握るなど）を用意しましょう。



洗濯板のビーズハーブ



お手玉を箱から出す

★気をつけよう★

直径39mm以下の玩具は、口の中にすっぽり入るため、飲み込んでしまう恐れがあります。また、玩具をなめることが多いため、清潔にしておきましょう。



おもちゃを与えるだけでなく、声かけや共感が、子どもの好奇心や意欲につながり、発達を促すことにもなります。子どもと一緒に遊んでみてください。





1歳ごろになると、歩行の発達に伴って行動範囲が広がります。玩具で遊んでいる間も、事故などに十分注意して見守りましょう。この頃の発達状況にあった手作りおもちゃをいくつかご紹介します。※発達状況には個人差があるのであくまでも目安です。

1歳1ヵ月くらい～

- ・物を入れたり出したりする遊びを繰り返す。
- ・歩くことを楽しむ。何かを持って歩いたり、何かを引いて歩いたりする。

●おもちゃ：ぽっとな落とし、引いて歩く玩具など



ペットボトルぽっとな落とし



ミルク缶ぽっとな落とし

☆行動範囲が広がるにつれて、自分以外のものへの興味が拡大していき、自らアプローチするようになります。こうした発達に合わせて、心の発達もすすみ、自我が芽生えてきます。



ひっぱる玩具

1歳6ヵ月くらい～

- ・肩、腕、手、指の機能が発達してきて、目と手の協調動作(立体を積み上げるなど)ができるようになる。
- ・イメージする力、表現する力が育ってきて模倣あそび(箱の中に入り、輪っかを持ち運転ごっこなど)ができるようになる。

※子どもによって見立てるイメージは違います。

●おもちゃ：積み木、箱、輪っか、洗濯ばさみ



ころりん積み木



洗濯ばさみあそび

1歳10ヵ月くらい～

- ・両手の手首をねじり、紙などをちぎることができるようになる。
- ・他の子どもの遊びを模倣し合うようになる。

●おもちゃ：ぽっとなプレート(プレートの入り口が狭いもの)

※結果が目に見えて表れるものを集中して繰り返すことを好みます。

※自己主張がはじめる時期です。膝の上で手遊びやわらべうたなどをすると情緒の安定につながります。



カラフルぽっとなプレート

綿棒の容器の蓋に穴をあけプレート(牛乳パックを丸く切ったもの)が入るようにします。入口が狭いので手首をねじるような、手指の細かい動きが必要になります。



★気をつけよう★

十分に遊んだり歩いたりできるように、遊ぶ部屋には倒れやすい物を置かない、物を口に入れたまま歩かせないなど、安全面に気をつけましょう。



一人で遊べるようになってきますが、おもちゃを与えるだけでなく一緒に遊ぶことも大事です。親子で遊ぶ時間をつくり、遊びの世界を深め、一緒に楽しんでみてください。





2歳頃からは、腕と指先を細かくコントロールする力がさらに発達し、集中する力もついてきます。子どもは生活の体験が遊びにつながり、遊びの体験が生活で反映されます。おもちゃと合わせて関わり方のポイントをご紹介します。

2歳頃から

- ・手首を回転させて、ねじることができるようになる。
- ・自他の区別がついてきて、ごっこ遊びや、人形の世話をする遊びが展開される。
- ・形や絵を認識する力がついてくる。

●おもちゃ：ひも通し、人形、パズル



キューブ型パズル



ひも通し



☆関わりポイント☆子どもの「みててね」

「みててね！」の背景には、「上手くやって褒められたい」と、そのことを成し遂げて褒められるのを期待している子どもの気持ちがあります。

最後まであきらめずにできた時、一生懸命頑張った時など、目を合わせニコッと笑い合うなどして、できた喜び、やり遂げた喜びを共感してあげましょう。大好きな大人が自分をよく見てくれている、自分は愛されているという実感が持て、自己肯定感を育むことにもつながります。



☆関わりポイント☆子ども同士のトラブル

自我が出てくるこの時期あたりから、他の子とぶつかり合うことが増えてきます。その時は、

- ①子どもの気持ちを受け止め整理し、言葉に置き換えて代弁しましょう。
- ②どうしたいか、どうしたらいいか子どもと考えたり説明したりし、子ども自らが納得していくようにしましょう。

頭ごなしに叱らず気持ちをいったん受け止めてもらえることで、子どもは自分の気持ちを表現してもよいという自信を失うことなく、問題解決能力、他者をいたわる心を身につけていくことができます。



☆関わりポイント☆『ごっこ遊び』

友達の遊んでいる玩具を欲しがったり、手に入らないと泣いて訴えたりすることもあります。トラブルが増えてくる時ですが、その時の子どもの気持ちの中には「友達と一緒に遊びたい」という思いが含まれていて、次第に共感の基礎が育ち、友だちの感情に気づくようになります。そして、ひとり遊びから友達との遊びへとつながります。

初めは、ごっこ遊びと言えるほどやり取りはなく、それぞれが役になりきってしゃべったり、振舞ったりして遊びます。徐々に、人形を通して会話をしたり、自分の思いを言葉で表現できるようになったりします。社会性を育てることにもつながるごっこ遊びを楽しみましょう。

